

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|----------|---------|
| 幼稚園・学校番号 | 1197419 |
| 施設名（園名等） | 玉成幼稚園 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然を通して命の不思議さを感じる

<テーマの設定理由>

ビオトープやバタフライガーデンで子どもたちは生き物に接しているが、自然の保全のために立ち入ることができない。足を踏み込まなくても生き物に接することのできるバッタ広場を作り、生き物や植物の命を大切にしつつ、身近に触れ合い、命の不思議さに気づくことを願っている。調べたり、記録を取ったりすることで、さらに関心を深めることを期待する。

2. 活動スケジュール

- ① 11月11日 バッタ広場に土入れ（土の違いを感じ取ろう！）
- ② 11月13日 バッタ広場に植栽（植物を植えてみよう！）
- ③ 11月20日 宝物探しゲーム（季節の自然にと触れ合おう！）
- ④ 日常的に、昆虫や動植物を観察し、調べたり、写真を撮ったりする。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

バッタ広場の土入れの作業を通して、園庭の土と黒土との色や匂い、感触の違いに気づかされた。そのときの気づきがあったせいか、園庭の土に関心を持ち、掘ってみると場所によって、色（黒っぽい、茶色い等）や質感（サラサラ、ふわふわ、粘土質等）の違いを発見した。性質に合わせて遊びに利用する姿が見られた。ふるいに掛けたり、水や砂を組み合わせ、遊びの材料に用いていた。

植物を植える活動を通して、葉や根っこの形態の違いを観察した。やさしく丁寧に扱う姿も見られた。

プランターの植物なども、タブレットを用いて定期的に写真を撮ることで、以前の写真と比較して生長を感じたり、撮ったものを拡大して見ることで、細部にも気づくことができた。

宝探しでは、日頃親しんでいる園庭なので、どこにどんな植物があるかわかっていて「あっちにあるよ」「たしかこのへんにあったよ。」と子ども同士教えあっていた。

バッタ広場の土入れや、植物を植える作業をしたので、柵がなく入れる高さであるが、中に立ち入る子どもが少なかった。





4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

バッタ広場の造成が、秋の終わりだったため、季節は冬に向かい虫や小動物や植物は休眠状態になり、生き物との出会いは少なかった。自然をテーマにする場合の探究活動は時期を考慮する必要があるが、これからバッタ広場は春を迎え、植物が芽吹き、生き物や活動を始める。探究活動は年度を越えて、継続したいと思っている。

バッタ広場の土入れや植栽に関わったことで、子どもたちには様々な気づきが生まれた。土の性質や植物の特性への気づきがあり、自分たちの遊びに上手に取り入れていた。黒い土でチョコレートを作り茶色の土をトッピングしたり、乾いた土をふるいにかけることでよりふわふわにしたり、粘土質の土でいろいろな形のクッキーを作ったり観て触れて、工夫する姿が見られた。

立ち入っていいバッタ広場を作るということで、バタフライガーデンへの立ち入りやむやみに花を取る姿が減ったように感じられた。

虫を取ってもよい場所、立ち入らないで虫たちのために自然を守る場所と明確に差別化したためと思われる。

3月になり冬越しの蝶のさなぎが羽化したが、以前と違い自然に返してあげることが、子どもたちにとって当然のこととなっている。昨年から引き続き自然をテーマに活動してきた結果、子どもたちの命を大切にする気持ちを育てたと感じている。

タブレットをクラスに置くことで、子どもたちが植えたチューリップの球根の生長を写真に取り、前回の写真を見ながら変化に気づくことができた。また高い木の花を写真に撮り拡大して見て細部に気づいたり、園庭で出会った生き物や植物について調べたりした。